

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援つむぎ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	令和8年3月25日		令和8年3月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年12月1日		令和8年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	25施設	(回答数) 14施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援の経験を有する訪問支援員が増え、支援の幅が広がった。	労働環境を整え、訪問支援員が働きやすい環境作りを行い、離職者を減らす。また、支援の事例を各スタッフ間で共有し、支援方法の幅を広げられるようにしている。	今後も、継続して人材確保に努め、待機利用児を解消できるようにしていく。また、スタッフとのコミュニケーションを密に取り、働きやすい環境作りを継続して行なっていく。
2	多職種の訪問支援員の配置をしているため、利用児の状況に合わせて、チームで支援を行うことができる。	利用児の状況や家族の意向・訪問先の意向に沿い、他職種で担当できるようにスケジュール等の調整を行うようにしている。また、支援の内容を常時共有できるように、共有ファイルを活用している。	対面でのチーム検討会やミーティングの回数を増やし、より一層の支援の向上を目指していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の人材確保がまだ課題である。	訪問先へ出向いて支援を行うため、現場でのスタッフの研修や学びの機会を頻回に設定することが難しく、事例での研修・勉強会になり、なかなか訪問支援員を育成することが難しい。	事例検討会や実践的な研修の回数を増やし、実際に現場をイメージしながら支援の仕方を確認・共有する場を増やす。
2	利用者保護者間での交流の機会がなく、日頃の悩みや情報共有の場が持てない。	事業所が積極的に交流の場を設けることができていない。個人間での交流はできても、不特定での交流の場や機会を設けることが難しい。	時期や場所(駐車場も含め)を確保し、定期的に交流の場を設定していくようにする。また、利用児の保護者の要望や希望を聞き、必要な交流の場を設定できるようにしていく。同年齢での交流や就学準備のための交流等。